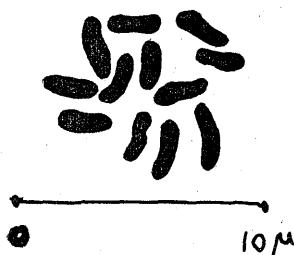


○シレトコスミレの染色体数 (前川文夫・小野幹雄) Fumio MAEKAWA & Mikio ONO: Chromosomes in *Viola kitamiana* Nakai from Japan.

北海道東端の知床半島の硫黄山 (1563 m) には固有種のシレトコスミレを産する。その姿は橋本保: 日本のスミレ 134ページ, 102-3図および図に出ている。一見したところでは、形態がタカネスミレに似ており、前川はかつてそのような扱いをしたが、橋本が説くように柱頭が頂生し、花柱は全くやせた棒状であってタカネスミレの属するキバナノコマノツメ群の柱頭が前方に突出しその後背部にひろく太い花柱の先端部がひさし状に拡がっているのとは大変へだたりがあるので、これはタカネスミレとは別群とみなければならない。それではどの群が適当かというと、日本産の他種には類似種がない。知床半島のように、他に目立った固有種を持たぬ地域にこういう変った種類があることは、植物地理的にみて、かくれた問題があると思われる。

それはとにかく本種の染色体数は  $2n=12$  である。この数字については上記橋本の書に引用されているが正式にこゝに記載しておきたい。材料は少し遡って昭和31年夏に日本植物学会大会が札幌で開かれた折に、会後のエキスカーションが網走と知床



で別の株を検鏡し、同じ数をえた。当時苦心して植物を入手してくれた加藤啓也氏と培養に骨を折られた鈴木吉五郎氏におくればせながら御礼を申上げる。

(東京大学理学部植物学教室・都立大学牧野標本館)

○ハゼランは多年生である (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: On perenniability of *Talinum* in Japan.

各地で見られるハゼラン *Talinum crassifolium* Willd. は、普通1年生というのが至当であるが、もともと原地では多年生のものとなっている。しかし、私の経験では一年草である。ところが、条件によってはこの草の特性である多年生の性質を現して来る。私はかつてこの草を埼玉県寄居に定住している知人に与えたことがあったが、そこでは根や茎が肥大して多年にわたり残存しているものもあることを知った。寄居は相当低温なところであるが、知人の宅地の庭のやゝ低いところに人工池があり、その周囲には2メートル位の土手がある向陽の場所で冬でもあたたかいためか、こゝではたしかに茎の一部や根は冬を越して生育していた。

(東邦大学薬学部)